



# 地域支援センターだより

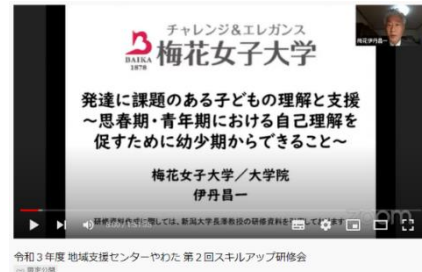
地域支援センターやわた

## 今年度第2回目の「スキルアップ研修会」を実施しました。

梅花女子大学 心理こども学部心理学科 教授 伊丹昌一氏より「発達に課題のある子どもの理解と支援～思春期・青年期における自己理解を促すために幼少期からできること～」という演題で御講演いただきました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、YouTubeLive を活用したオンライン形式で講演会を実施しました。12月24日(金)にライブ配信を行い、12月30日(木)まで、録画配信を見ていただけるよう、動画を公開いたしました。

今回はオンラインでの開催となったため、圏域外の府立学校等にも広くご案内させていただきました。保・幼、小、中、高等学校、特別支援学校の先生方、その他関係機関の職員の方、そして本校教職員を含めて約220名の方々に参加いただき、300回を超える再生回数御視聴していただくことができました。



講義ではまず、国際疾病分類がICD-11に改定されたことで、人の生まれながらのやりにくさは症状であり、症状を理解されない環境や否定的対応によって起きる困難や生き辛さが障害であることを押さえられました。また、乳幼児期、学童期、青年期、成人期までの各発達段階において、それぞれクリアする課題があること、幼少期から自己選択→自己決定→自己理解→自己実現と段階を追って発達していくことを学びました。しつけのし過ぎや過干渉がマイナス効果になってしまうというお話から、日々の指導を今一度振り返る機会となりました。

### ご参加いただいた方からの感想（一部抜粋）

- 子どもたちを笑顔にするには、まずは保育者が笑顔になることだと伊丹先生の言葉を聞いて、その通りだと思いました。明るく、ポジティブを心掛けて第3学期、保育に心を入れていきたいと思います。（保育園・幼稚園）
- 「達成可能な具体目標」を立てることが大事だということをも本人にはもちろん、周りにも伝えていきたいと思います。（小学校）
- 本人の話を最後までしっかり聴くこと、過去の本人と比べ褒めること、一貫した同じ関わりが大切だと思いました。つい忘れそうになりますが徹底した特性理解を忘れないよう日々生徒と向き合っていきたいです。（高等学校）
- “意欲”があれば能力を超えるという言葉が印象に残りました。達成できる課題を設定し、意欲を高めることが何よりも大切であることを常に意識して、子どもたちに関わっていきたいと思います。（特別支援学校）
- 「自己選択」「自己決定」「一貫したぶれない指導」「具体的」「イライラしたら負け」という5点を肝に銘じて、大人になった時の像を描いて指導にあたりたいと思います。「支援は早すぎることはない。遅すぎることもない。気づいたときにする。」この講師の先生の言葉忘れられないようにします。（関係機関）